

令和6年度

運営に関する計画 (最終評価)

大阪市立大淀中学校

令和7年3月4日

目 次

1 学校運営の中期目標（総括シート）	…	P.2
2 中期目標の達成に向けた年度目標	…	P.4
3 本年度の自己評価結果(年度末)の総括	…	P.5

目標別シート

【最重要目標 1 安心・安全な教育の推進】

安全・安心な教育の推進	…	P.7
豊かな心の育成	…	P.10
結果と分析・次年度への改善点	…	P.12

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

学力・体力の向上	…	P.14
健やかな体の育成	…	P.21
結果と分析・次年度への改善点	…	P.22

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

学びを支える教育環境の充実	…	P.23
結果と分析・次年度への改善点	…	P.24

大阪市立大淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

- 生徒アンケート「学校生活が楽しい」(生徒アンケート)肯定的な回答が(R5年度 87.7%、R4年度 88%、R3年度 87%、R2年度 86%、R1年度 92%)であった。生徒はコロナ禍にあって、学校行事の縮小や中止など、制限多い生活を強いられていたが、将来に夢や希望を抱けるための工夫と改善を進める。
- 「学校は、生徒の安全管理や安全確保に取り組んでいる」(保護者アンケート)において肯定的な回答が(R5年度 95%、R4年度 96%、R3年度 97%、R2年度 96%、R1年度 97%)であった。取り組みを工夫して、生徒自身の意識を向上させ、災害時等に地域で活躍できるように防災教育に取り組む。
- 「自分のことを大切にし、他の人の大切さを認めることができる」(生徒アンケート)において肯定的な回答が(R5年度 97%、R4年度 94%、R3年度 93%、R2年度 93%、R1年度 98%)である。様々な活動を通して、自尊感情や自己有用感を高める取り組みを創造する。
- 「学校は、仲間関係を大切にし、いじめのない学級づくりに取り組んでいる」(保護者アンケート)において肯定的な回答は目標 85%に対して、(R5年度 90%、R4年度 92%、R3年度 94%)と目標を達成している。しかし「いじめは、どんな理由があってもいけない」と思う生徒の育成に、さらに意識の向上に取り組み、大淀中学校からいじめを無くす取組を強化する。
- 「将来の夢や目標を持っている」(全国学力・学習状況調査)において肯定的な回答が目標 85%以上に対して(R5年度 61.9%、R4年度 67.7%、R3年度 68%)「将来の進路や生き方について考えている」(生徒アンケート)において肯定的な回答が目標 85%以上に対して、(R5年度 76%、R4年度 77%、R3年度 77%、R2年度 73%)であり、目標に達していないため生徒たちの目標や自己肯定感の樹立を目指す。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 「自分の考えや意見を自分の言葉で発表している」(生徒アンケート)において肯定的な回答が目標 75%以上に対して(R5年度 83%、R4年度 74%、R3年度 74%、R2年度 69%)である。自分の思いを自信をもって伝え合える子どもを育てる学校となるために、主体的、対話的で深い学びを推進する。
- 全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語(R5年度 77%、R4年度 72%、R3年度 65%、R1年度 78%)、数学(R5年度 56%、R4年度 53%、R3年度 64%、R1年度 65%)である。全国を上回っている。習熟度別少人数授業等の充実や指導法の工夫改善を通して生徒の学力の向上に取り組む。
- 「自分の健康に気をつけている」(生徒アンケート)において肯定的な回答が目標 80%以上に対して(R5年度 87%、R4年度 88%、R3年度 84%、R2年度 86%)と上回っており、規則正しい生活習慣の確立に向けた取り組みを通して心身共に健全な生徒を育成できつつある。
- 中学生チャレンジテスト(大阪府)の標準化得点を 100.0 以上にする目標に対して、中学3年生の3教科・5教科とも、概ね目標を達成している。課題を明確にし、各教科の取り組みを高める必要がある。

【その他 施策を実現させるための仕組みの推進】

- 「学校が進める教育活動に期待が持てる」(保護者アンケート)において肯定的な回答が目標 80% 以上に対して(R5 年度 95%、R4年度 91%、R3年度 88%、R2年度 90%、R1年度 94%)であった。信頼され誇れる学校を目指すために、カリキュラムマネジメントを進め教育活動をさらに公開して、保護者の皆様、地域の皆様と協働して生徒の育成に当たりたい。
- 本校では、保護者及び生徒アンケートの結果の分析を踏まえ、毎年グランドデザインを策定し教育活動の向上をめざし取組を進めている。この間、新型コロナウイルス感染症による臨時休業を回避し、Teams の活用によるオンライン学習の実施、授業の配信など前例のない対応で、生徒の「学びを止めない」(学習と活動)に努め、生徒の心のケアなどに注力した。設定されている目標値はほぼ達成されているが、昨年度と比較して低下している項目もある。「学校生活が楽しい」(生徒アンケート)や「学校が進める教育活動に期待が持てる」(保護者アンケート)など、新型コロナウイルス感染症による様々な影響があるのか、検証しなければならない。
- 今後、新大阪市教育振興基本計画にそって「学校における働き方改革」「GIGAスクール構想」に関わる国の取組が大きく進展していく中、こうした大きな動きをしっかりとらえて本校の教育活動を充実していく。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
(新規)11月末実施予定
 - ② 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を84%以上にする。
修正(R5年度 75%)11月末実施予定
 - ③ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(継続) (R5:9.5%、R6:10.9%)
 - ④ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(継続) 調査継続中のため最終反省で明示
- ※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
- ※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)
1. 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)
 2. ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 3. 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を32%以上にする。
修正(R5年度 26.2%)11月末実施予定
- ② 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
(継続)3年生 国語 R5:1.08 R6:1.09、数学 R5:1.26 R6:1.25
- ③ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を65%以上を保つ。
修正(R5年度 73.4%)調査結果待ち
- ④ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53%以上にする。
修正(R5年度 47.3%)11月末実施予定

【学びを支える教育環境の充実】

・ICTの活用に関する目標

- ① 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
(新規追加)9月末現在:20.9%
- ② 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
(継続)継続中

・教職員の働き方改革に関する目標

- ③ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。
(修正 R5-82%)10月末現在:48.6%

3. 本年度の自己評価結果（年度末）の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ① 「年度末の校内調査における『学校に行くのは楽しいと思いますか』に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。」について
 - 年度末の校内調査(生徒アンケート)で「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的な「思う」とした生徒の割合は87.0%だった。目標値からは7%上回ったが、R5年度の校内調査(88%)より1%下回っている。将来に夢や希望を抱けるための行事等の工夫が必要である。
- ② 「年度末の校内調査における『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を84%以上にする。』について
 - 年度末の校内調査(生徒アンケート)で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は81.8%だった。目標より2.2%下回った。校内調査(生徒アンケート)で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に肯定的な「思う」「概ね思う」と回答した生徒の割合は97.2%と、昨年度より6.8%上回っている。生徒会を中心に、いじめについての取り組みが、徐々に成果として表れてきているが、満足できないのが現状である。否定的に回答した生徒が2.8%(7人)いることを踏まえ次年度は意識を改善させたい。
- ③ 「年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ④ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。」2項目について
 - 「年度末の校内調査(統計)で不登校生徒の在籍比率は10.9%と、前年度より1.4%上回ってしまっているが、④年度末の校内調査(統計)の「前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。」においては、前年度26人いた不登校生のうち10人が改善し、38%と高い割合で改善が見られた。校内でのE.R.の取り組みや、S.S.W.等の外部人材とのつながりや支援を進めてきた結果が表れている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 「年度末の校内調査における『学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか』に対して、最も肯定的な『思う』と回答する生徒の割合を32%以上にする。」について
 - 年度末の校内調査(生徒アンケート)で「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」と、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は27.9%だった。昨年度調査結果の26.2%を上回るも、目標の32%以上にするより下回ってはいる。教職員の授業の進め方に変化が表れてきているが、今後も継続して「OYODO STANDARD(授業標準)」を定着させ教職員の授業力の向上に努めていきたい。自分の思いを自信をもって伝え合える子どもを育てる学校となるために、主体的、対話的で深い学びを、さらに推進する必要がある。
- ② 「中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。」について
 - 中学生チャレンジテスト(3年)における国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較した結果、国語1.08、数学1.25だった。目標のクリアはできなかったが昨年同等の高位で3年生は推移した。1・2年生については結果を待っている。
 - 習熟度別少人数授業等の充実や指導法の工夫改善を通して生徒の学力の向上に取り組み、高水準で学力は維持できているが高い目標に難しさを感じている。引き続き学力向上に取り組む。

③ 「大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を65%以上に保つ。」について

- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は 77.7%と目標を大きく上回った。昨年度(73.4%)と比べても、3.3%上回っている。英語力の向上について、これまでの英検の取り組みや、小学校からの積み上げの成果がここで表れている。

④ 「年度末の校内調査における『運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか』に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53%以上にする。」について

- 年度末の校内調査(生徒アンケート)で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」と、最も肯定的な「好き」と回答した生徒の割合は 52.4%だった。目標値からは 0.6%下回ったが、R5年度の校内調査(47.3%)より 5.1%上回っている。
- わかる授業から出来る。出来ることで楽しい。楽しいから主体的に取り組める授業が保健体育で行えている結果から、向上の要因としてうかがえる。さらに、部活動の充実も要因として考えられ、部活動指導員も今年度9名に拡充し、充実した取り組みができています。

【学びを支える教育環境の充実】

ICTの活用に関する目標

① 「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。」について

- 大阪市の年度末調査(統計)で「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上にする。」は 23.7%(12 月末現在)と目標より大幅に下回った。不登校生徒や欠席生徒の実態と数値計算方式が合致していないことが要因と思われる。
- しかし、全校生徒の利用率は 71.1%で、昨年度(48.5%)と比較して、飛躍的に学習者用端末を活用できている。

② 「学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。」について

- 学習者用端末を活用した家庭学習は、概ね1週間で一回以上は活用することができている。学習者用端末を毎日持ち帰ることで、いつでも使えるように整備することができた。今後、予備の学習者用端末を活用し、授業配信を継続していく。

教職員の働き方改革に関する目標

③ 「年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。」について

- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合は 83.3%(1月末現在)と、年度末には目標(85%以上)をクリアする見通しである。
- 今年度の、教員の時間外勤務の状況は、累積平均で 35 時間 36 分であった。昨年度は 42 時間 50 分だったので、7時間 14 分減らすことができた。さらに改革を進していきたい。
- 年次有給休暇の取得に対して、ゆとりの時間の確保・活用や、学校閉庁日の拡大を来年度は取組んでいきたい。また、あらゆる人材の確保に努め、教職員がゆとりをもって勤務できる環境を整えていきたい。

(様式2)

大阪市立大淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(新規)</p> <p>② 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を84%以上にする。修正(R5年度 75%)</p> <p>③ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(継続)</p> <p>④ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(継続)</p> <p>※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。</p> <p>※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <ol style="list-style-type: none">出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめへの対応（生活指導部）</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針の周知徹底を図る。いじめについて、学級、学年、学校全体で話合う機会を作り、いじめはどんな理由があってもいけないことであること学ぶ取り組みを行う。 いじめについて年2回校内調査(生徒アンケート)を行う。 <hr/> <p>指標</p> <p>① 保護者アンケート「学校は、仲間関係を大切にし、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。」において肯定的な回答を90%以上にする。 (R5年度肯定的な回答90%)</p> <p>② 校内調査を行い、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の最も肯定的な回答を85%以上にする。 (R5年度84%)</p>	B
<p>結果と分析</p> <p>① 保護者アンケートは90%と指標に近い数字である。</p> <p>② 生徒アンケートは81.8%と指標を下回った。 いじめについてはどんな理由があってもいけない事だと理解は深まっている。それは、いじめについて考える日の取り組みや、全校集会での講話、道徳での教材を通じて様々な場面でいじめについて考え話し合いなどを行っている結果である。</p> <hr/> <p>今後の改善点</p> <p>いじめは、いつでもどこでも起こることを前提として観察していかななくてはならない。今後、継続して取り組みやいじめアンケートなどを行い、「いじめはどんな理由があってもしてはいけない」ということを考え続けていく必要がある。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校への対応（生活指導部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導部が中心となり、「おおよどエンパワーメントルーム(以下、ER)」を運営し、生徒の学びを守る。 週1回の生活指導連絡会、学期に1回のスクリーニング会議で、不登校生徒の情報共有を行い、可視化することで誰とも繋がりのない生徒を作らない。 SSW、区役所をはじめ関係諸機関との連携を密に行う。 <hr/> <p>指標</p> <p>① 不登校生徒を学校全体の10%以下にする。(R5年度9.5%)</p> <p>② 学校、関係諸機関と連携し、誰とも繋がりのない生徒を0人を継続する。 (R5年度0人)</p> <p>③ 不登校生徒(欠席30日以上)のうち前年度の登校日数より1日でも多く登校できる生徒を3人以上にする。(R5年度4人)</p> <p>④ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(校内調査は随時行う) (新規)</p>	B
<p>結果と分析</p> <p>① 不登校生徒は38名で、学校全体の10.1%と指標を達成できなかった。ERの運用、生活指導連絡会、スクリーニング会議などを行ったことにより昨年度よりも不登校生徒の極端な増加にはいたらなかった。</p>	

<p>② 週に1回の生活指導連絡会で不登校生徒の情報を共有し、関係諸機関との連携もできた。少年サポートセンター、区役所、大阪市教育支援センター、こども相談センター・サテライトを利用し、誰とも繋がりのない生徒はゼロである。</p> <p>③ 不登校生徒の中で昨年度より登校日数が増加した生徒が10人(1年生2人、2年生4人、3年生4人)と大幅に増えた。情報共有や居場所作りなど個に応じた対応が進んでいる結果だと考えられる。</p> <p>④ 肯定的な回答は87%と指標を達成した。</p>	
<p>今後の改善点</p> <p>新たな不登校生をつくらないために、トラブルや悩みを早期に発見し対応する必要がある。</p> <p>また、入学前から不登校の生徒においても小学校からの引継ぎや小中連携を密に行い登校や関係機関と繋げるなどの対応が必要になる。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>防災・減災教育の推進(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none">避難訓練・防災教育を通して生徒の防災意識を高めるとともに、地域防災リーダーとしての役割を担うことができる人材育成を行う。地域と連携した避難訓練・防災教育を年2回以上実施する。	B
<p>指標</p> <p>① 防災の日に参加された地域の方へのアンケート「今回の防災訓練での取り組みが緊急時において中学生と共に地域全体で活かすことができると思いますか」において肯定的な回答を70%以上にする。(新規)</p> <p>② 生徒アンケート「防災訓練で習ったことを実践できそうですか」において「できる」回答を55%以上にする。(R5年度55%)</p>	
<p>結果と分析</p> <p>① 防災の日に参加された地域の方へのアンケート「今回の防災訓練での取り組みが緊急時において中学生と共に地域全体で活かすことができると思いますか」において肯定的な回答は85%であった。</p> <p>② 生徒アンケート「防災訓練で習ったことを実践できそうですか」において「できる」の回答は53%であった。(1年56%、2年44%、3年61%)</p>	
<p>今後の改善点</p> <p>安全管理は、全教職員が当事者意識で、日頃から取り組む必要がある。次年度も継続させていく。</p> <p>防災教育については実践できる生徒は増えつつあるが、実践できそうかの問いに不安だと言う意見もある。災害が起こった時に、自信を持って行動する力や地域との連携の強化が課題である。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>問題行動への対応(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none">問題行動を未然に防げるように、生徒の見守りや、声掛け、観察を行う。問題行動が発生した時、初期対応をていねいに行い、学校全体で対応する。 発見者→学年→生徒指導部→管理職に状況報告を行う。再発しないように指導し、その後の見守りを継続する。	B
<p>指標</p> <p>① 生徒アンケート「学校は、学校の決まりを守るなど、社会生活のルールを守っている。」(規範遵守)の肯定的な回答を95%以上にする。 (R5年度 肯定的な回答99%)(新規)</p> <p>② 保護者アンケート「学校は、学校の決まりを守るなど、社会生活のルールを守る態度を育てようと努めている。」(規範遵守)の肯定的な回答を95%以上にする。</p>	

(R5年度 肯定的な回答 98%)	
結果と分析 ① 生徒アンケートは 98.4%と指標を達成した。 ② 保護者アンケートは 94%であった。 問題行動や生徒間のトラブルが起った事案に対して丁寧に対応し解決することが出来ているので今後も継続して組織で解決していく。保護者連絡丁寧に行うことを継続し、啓発活動を行っていく。	
今後の改善点 問題行動が起こった際の初期対応について共有し周知徹底する。教職員間の報告・連絡・相談を確実に行い、一人に対応するのではなく、学年や学校全体で対応を行っていく。 また問題を未然に防ぐために、見守りや声掛けをいき問題行動を減らしていくようにする。	
取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 安心教育の推進（管理職・施設整備委員会） ・ 老朽化や不衛生設備と施設の改善	B
指標 ① 毎年の改善項目を可視化し、共通理解を進める。 ② 安全衛生委員会、施設設備委員会を学期に1回開催し、老朽化や不衛生設備の確認をする。	
結果と分析 安全衛生委員会、施設設備委員会を学期に1回開催し、老朽化や不衛生設備の確認をすることができた。計画していた校舎修繕については、3月末をめぐり、すべての工事を実施することができる予定である。	
今後の改善点 計画は早めに立てていたが、工事開始が年度末ぎりぎりになってしまっている。夏季・冬季休業中に計画的に実施できるようにしていく必要がある。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 道徳教育の推進（人権・道徳教育委員会） <ul style="list-style-type: none">人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">授業の学年末アンケートの「他者の意見を聞いて、自分の思いを伝えることができた」において、肯定的な回答 93%以上を維持する。（R5年度 93%）	
結果と分析 <ul style="list-style-type: none">授業の学年末アンケートの「他者の意見を聞いて、自分の思いを伝えることができた」において、肯定的な回答が 92%になった。8月に平和学習（1 年「大阪空襲」、2 年「原爆・広島」、3 年「沖縄戦」）を実施した。各学年「性・生教育」を実施できた。取り組みの時間数を増やして内容を充実・定着させることが課題である。	
今後の改善点 <ul style="list-style-type: none">平和学習の実施にあたり、朝日新聞「知る原爆」「知る沖縄戦」「知る水俣病」を今年度活用したので来年度も続けていく。実施内容については、学年の実態や、世界情勢なども踏まえて検討していく。	

<div>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</div> <div>インクルーシブ教育の推進(インクルーシブ教育推進委員会)</div> <div><ul style="list-style-type: none">保護者の願いを踏まえ、個別の支援計画・個別の教育指導計画を作成し、指導の明確化と共有を図る。また、特別支援学級と通常学級の連携を密にし、基礎・基本の学力の定着を図る。</div>	B
<div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">サポートルーム保護者アンケート「特別支援学級は、保護者の願いにこたえた教育活動を行っている。」において、肯定的な回答 90%以上を維持する。(R5年度 95.8%)サポートルーム保護者アンケート「子どもは、特別支援学級の授業がわかりやすいと言っている。」において、肯定的な回答 80%以上を維持する。(R5年度 81.0%)</div>	
<div>結果と分析</div> <div><ul style="list-style-type: none">後期に実施したサポートルーム保護者アンケート「学校(特別支援学級)は、保護者の願いにこたえた教育活動を行っている。」において、肯定的な回答が 95.8%、「子どもは、学校(特別支援学級)の授業がわかりやすいと言っている。」において、肯定的な回答が 94.1%であり、目標達成した。個別の教育支援計画、個別の指導計画を基に、生徒一人ひとりに応じた授業を行うことができた。</div>	
<div>今後の改善点</div> <div><ul style="list-style-type: none">自立活動の内容を精査し、より生徒が主体的に活動できる授業を目指す。また、自立活動の内容を全教職員に周知し、合理的配慮と支援方法を共有する。</div>	
<div>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</div> <div>キャリア教育の充実(進路指導委員会)</div> <div><ul style="list-style-type: none">3年間の系統だったキャリア教育を実践する。1 年生では、社会や職業について学習する。2年生では職場体験等を通じて、自らの将来について考える。3年生では、過去のキャリア体験を踏まえた進路実現を目指す。</div>	C
<div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">キャリア学習の後に実施したアンケートで、将来展望に関する項目で肯定的な回答を 80%以上にする。(R5年度、生徒アンケート「将来の進路や生き方について考えている」について肯定的な回答 77%)</div>	
<div>結果と分析</div> <div><ul style="list-style-type: none">11 月実施の生徒アンケートでは、「将来について進路や生き方について考えている」という項目で 73.2%が肯定的な回答した。</div>	
<div>今後の改善点</div> <div><ul style="list-style-type: none">1 年生は、11月に進路講話と職業 Expo に参加し、将来展望を持つよう指導した。2年生は職業体験を踏まえて自身の進路選択の一助とするよう指導した。3年生は進路決定の時期となるので、不適応を起こさないように、丁寧に対応するよう心掛ける。より具体的な将来展望を持てるように活動を精査する。</div>	
<div>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</div> <div>人権を尊重する教育の推進(人権・道徳教育委員会)</div> <div><ul style="list-style-type: none">学年ごとの取り組みを中心に、心のふれあいとぬくもりのある豊かな心を育む教育活動を推進する。</div>	A
<div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">生徒アンケートの「自分のことを大切にし、他の人の大切さを認めることができる」において、肯定的な回答を 90%以上を維持する。(R5年度 肯定的な回答 93%)人権講演会を年度内に実施し、肯定的回答が 85%以上にする。</div>	

<div>結果と分析</div> <ul style="list-style-type: none">生徒アンケートの「自分のことを大切に、他の人の大切さを認めることができる」において、肯定的な回答が 89.1%であった。人権講演会後のアンケートで、内容について肯定的な回答が、99%であった講演内容が生徒にとって分かりやすく、休憩中に講師の井上さんに、たくさんの生徒が話しかけている様子もよかった。	
<div>今後の改善点</div> <ul style="list-style-type: none">道徳は、年間 35 時間の確保ができているが、人権の取り組みに対して十分できているとは思えない現状である。日程等検討して、取り組み時間の確保に努める。来年度の講師の選定・内容の決定を早い段階で決めて、進めていく必要がある。(R7はがんに関する内容で検討中)	
<div>取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</div> <div>北区事業の活用(教務部視聴覚係・主任会)</div> <ul style="list-style-type: none">北区事業を活用し、本物の芸術鑑賞会を実施する。	A
<div>指標</div> <ul style="list-style-type: none">事後アンケートで「芸術鑑賞に興味はもてましたか」「また、芸術鑑賞会に参加したいですか」の項目について肯定的な回答 80%以上を維持する。「芸術鑑賞に興味はもてましたか」R5年度項目なし、R4年度 3.9%「また、芸術鑑賞会に参加したい」R5年度 82.9%、R4年度 81.7%	
<div>結果と分析</div> <ul style="list-style-type: none">3年生は梅田芸術劇場でロミオ & ジュリエット、2年生は劇団四季によるバケモノの子、1年生は天満天神繁昌亭にて上方落語をそれぞれ鑑賞した。北区芸術鑑賞事業を活用して本物を鑑賞した。芸術鑑賞に興味はもてましたか肯定的回答 R6年度 88.3%(3年 84.7% 2年 89.7% 1年 90.5%)また、芸術鑑賞会に参加したい肯定的回答 R6年度 89.1%(3年 89.1% 2年 94.0% 1年 84.2%)2年生は、物語はわかった?という質問においては最も肯定的な回答が 80%を超えており、肯定的回答は 98.3%だった。映画を鑑賞していた生徒が内容を理解しやすかったことが考えられる。同様にロミオとジュリエットも最も肯定的な回答が 50%を超え、肯定的回答は 91.3%だった。わかりやすい、なじみのある演目は鑑賞しやすいことが考えられる。落語を見たことのある生徒は 47/127 名。そのうち寄席などで鑑賞経験のある生徒は1名。実際に鑑賞したことが新鮮に映ったことが考えられる。2年生はミュージカルを劇場で鑑賞したことがある生徒は 10/117 名。1年生と同様、初めて生で鑑賞した生徒が多いことから、高い数値となったことが考えられる。	
<div>今後の改善点</div> <ul style="list-style-type: none">次年度年間行事の鑑賞候補日を検討し始めており、生徒が鑑賞しやすい計画をたてる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 「年度末の校内調査における『学校に行くのは楽しいと思いますか』に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。」について、肯定的な「思う」とした生徒の割合は 87.0%だった。目標値からは7%上回ったが、R5年度の校内調査(88%)より1%下回っている。将来に夢や希望を抱けるための行事等の工夫が必要である。
- ② 「年度末の校内調査における『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 84%以上にする。」について、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は 81.8%だった。目標より 2.2%下回った。
校内調査(生徒アンケート)で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に肯定的な「思う」「概ね思う」と回答した生徒の割合は 97.2%と、昨年度より 6.8%上回っている。生徒会を中心に、いじめについての取り組みが、徐々に成果として表れてきているが、満足できないのが現状である。否定的に回答した生徒が 2.8%(7人)いることを踏まえ次年度は意識を改善させたい。
- ③ 「年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ④ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。」2項目について
③の不登校生徒の在籍比率は 10.9%と、前年度より 1.4%上回ってしまっているが、④の年度末の校内調査(統計)の「前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。」においては、前年度 26人いた不登校生のうち 10人が改善し、38%と高い割合で改善が見られた。校内での E.R.の取り組みや、S.S.W.等の外部人材とのつながりや支援を進めてきた結果が表れている。

次年度への改善点

学校において「学校生活が楽しい」ことは最優先課題である。生徒が安全・安心でのびのび学び、思いっきり活動できる学校でありたい。

大淀中学校教育活動ランドデザインの「めざす子ども像」に示している。「大らかな心で 明るくあいさつができる子ども」に代表されるよう、基本的な生活習慣「〇あいさつをする 〇時間を守る 〇丁寧な言葉遣いをする 〇環境を整える」を卒業するまでに身につけさせることが重要であると考えます。

豊かな心の育成をすすめることが、いじめがない学校、いじめを許さない学校、生徒が安全・安心できる学校となると考える。

急激な社会の進化とともに求められることが多くなっている時代において、将来に夢や希望を抱けるための工夫と改善を進める。

不登校問題の改善には、現行の体制から一歩前に進むことが重要である。行政や関係諸団体とのお力をお借りし、不登校児童生徒の多様な学びの場を確保するために、令和 7 年度より校区内に別室登校スペース(名称未定)を開設していきたい。

(様式2)

大阪市立大淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な思う」と回答する生徒の割合を32%以上にする。 (R5年度26.2% 本市R7年度目標値35%) ② 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。 (継続) ③ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を65%以上を保つ。(R5年度 73.4% 本市R7年度目標値56%) ④ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53%以上にする。(R5年度 47.3% 本市R7年度目標値53.6%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 国語科 <ul style="list-style-type: none"> 問題解決能力、論理的表現力を高めるために、生徒が「書く」、「話す」などの学習活動で、能動的に取り組み、自分の考えを表現できる授業を展開する。 思考力・判断力・表現力を育てるために、全学年で新聞の書き写しの家庭学習の確立に取り組み、また記事に対して自分の考えをまとめる活動を行う。 誰一人取り残さない学力の向上を目指し、文法分野や漢字検定のライセンス取得に向けた習熟度別少人数授業を行う。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 中学生チャレンジテストにおける国語の「書くこと」を問う問題の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 (R5年度チャレンジテストの「書くこと」平均点の対府比 1 年-0.3、2年+1.1) 	
結果と分析 <ul style="list-style-type: none"> 中学生チャレンジテスト(3 年生)における国語の「書くこと」の問題の平均点は 15.7 で、府平均の 14.3 に対し+1.4 であり、指標を達成した。1.2 年生においてはチャレンジテストの結果待ちである。 チャレンジテストは 3 年生の結果しか出ていないが、「書くこと」・「記述式」の問題についての力を身につけさせるために、各学年で取り組んだ新聞の書き写しや作文指導などの成果が見られたと考える。 各学年、習熟度別授業を行い、文法、漢検対策、入試対策の授業においては生徒に希望調査をとり、自分の苦手を克服するためのクラス選択をさせることで基礎知識が身についたと考える。 	

<div>今後の改善点</div> <ul style="list-style-type: none">チャレンジテスト(3年生)の結果を見るとすべての問題で府平均を上回ってはいるが、古典分野については苦手意識をもつ生徒も多いため、1, 2年生では引き続き百人一首大会の取り組みを通して古典に親しみ、関心をもたせる必要がある。また次年度は入試までに多くの生徒が漢字検定のライセンスを取得できるようにするため、受験日の変更や習熟度別授業において個別最適な学びを実施していきたい。		
<div>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div>社会科</div> <ul style="list-style-type: none">問題演習や自主学習を通じて、生徒の理解を深める。全学年で TT の授業を展開し、学年ごとに応じた習熟度別少人数授業を行い、学習の習慣づけや問題解決能力を高めていく。特に、記述による解答に課題があるため、文章を書く力をつけていく。	B	
<div>指標</div> <ul style="list-style-type: none">生徒アンケートにおける「授業内容がよくわかる」においての肯定的回答を 80%以上を維持する。(R5年度、肯定的な回答 1年 93%、2年 93%、3年 91%)チャレンジテストの「無解答率」を大阪府平均以下にする。(R5年度チャレンジテスト「無解答率」3年本校 3.0%/大阪府 3.1%、2年本校 2.2%/大阪府 3.5%)		
<div>結果と分析</div> <ul style="list-style-type: none">生徒アンケートにおける「授業内容がよくわかる」において肯定的回答が 1 年生 85%、2年生 96%、3年生 89%であった。チャレンジテストの無解答率は 3 年生 4.2%大阪府 4.7%であった。(1, 2 年は結果待ち)チャレンジテストの結果から平均点も大阪府平均を超えている。無解答率をみると、地理分野で大阪府平均を上回る設問が 2 問あった。		
<div>今後の改善点</div> <ul style="list-style-type: none">基本的な学力はついており、30 点以下の層は 1 割ほどになっているので、T/T の授業や授業時間内での演習問題でまだ基礎知識が定着していない層を減らしていく。発展的は力を伸ばせるように、グラフの読み取りや地図などの資料を読む時間を増やしていく必要がある。		
<div>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div>数学科</div> <ul style="list-style-type: none">自学自習力を高める「学び方」の指導を進める。学びあい活動を積極的に取り入れた授業展開を進める。記述式問題に取り組むための読解力、思考力を養う機会を増加する。	B	
<div>指標</div> <ul style="list-style-type: none">生徒アンケートにおける自学自習(家庭学習)においての肯定的回答を 80%以上にする。(R5年度、肯定的な回答3学年平均 79%)生徒アンケートにおける話し合う活動においての肯定的な回答を 80%以上にする。チャレンジテストの「無解答率」を 10%以下にする。また、経年比較し、平均点を前年度より0.03ポイント向上させる。(R5年度チャレンジテスト「無解答率」、1年 8.3%、2年 5.0%、3年 6.4%)		
<div>結果と分析</div> <ul style="list-style-type: none">通常授業や習熟度授業において、自学自習で行う部分と、話し合う活動(グループ学習)で行う部分の両方を積極的に取り入れた授業を実施した。話し合う活動や記述問題を授業や課題に取り入れることで、自分の意見や考えを述べる機会が増えた。		

<p>教科のアンケートでは、話し合う活動において肯定的な回答が 1 年生で 56%、2 年生で 95% 以上、3 年生で 73%、トータルで 75% あった。</p> <p>1 年生で基礎基本を定着させた上で、2 年生で話し合いの活動を充実させ、3 年生で家庭学習（自学自習）の定着に結び付けることができた。今回 3 年生の家庭学習の定着率は 91% であった。</p> <ul style="list-style-type: none">生徒アンケートでは、話し合う活動について、肯定的な回答は全学年では、78.5% であった。また、考えが深まったり、広がった肯定的な回答は、全学年で 83.9% であった。・チャレンジテストの「無解答率」3 年生は、4.3% であった。昨年度より 0.7% 下回り、目標を達成している。1, 2 年生はチャレンジテストに向け、基礎基本の定着から発展的内容・記述式問題への対応を練習させた。	
<div>今後の改善点</div> <ul style="list-style-type: none">生徒は「自学自習」の方法については、生徒自身どう取り組みばよいかわからず、課題に取り組むだけで終わることが多いため、課題を工夫し、自ら調べてみようという興味の湧く内容を考える必要がある。・課題について、補充学習を行うことで、あきらめず取り組む力を育て、今後とも無回答率の減少につなげていきたい。	
<div>取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div>理科</div> <ul style="list-style-type: none">実験結果の考察や問題の解き方を自分の言葉で説明し、班で共有する時間を設ける。グループ活動、実験・観察を積極的に行い、実験の予想や結果における個人の意見を他者と考えを共有し、主体的に話し合う時間を作る。	B
<div>指標</div> <ul style="list-style-type: none">チャレンジテストの記述式問題の「無解答率」を大阪府平均以下にする。 (R5 年度チャレンジテスト本校「無解答率」2 年生:10.7%、3 年生:6.6% 大阪府「無解答率」2 年生:11.8%、3 年生:9.0%)授業アンケートにおける「主体的に話し合う時間がある」の項目において、肯定的な回答（あてはまる、ややあてはまる）の割合を全学年 75% 以上にする。(R5 年度 1 年生:83%、2 年生:42%、3 年生 72%)	
<div>結果と分析</div> <ul style="list-style-type: none">3 年生チャレンジテストの「無解答率」は、大阪府の平均 4.4% に対して、3.1% であった。1.3% 上回っている。3 学年ともに実験・観察をカリキュラム通りに行うことができている。また、TT を 2 学期から行っていることで、実験・観察やグループ活動での声掛けやサポートも手厚く行うことができている。	
<div>今後の改善点</div> <ul style="list-style-type: none">実験・観察などを行う中で、率先して行う生徒と、そうでない生徒の差が大きいため、恥ずかしさや、自分の考えに自信を持ってない生徒へのサポートを行い、全員がより参加しやすいように愛応していく必要がある。	
<div>取組内容⑤【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div>英語科</div> <ul style="list-style-type: none">自分の思いや考え、意見などを英語で表現し伝え合う活動を通して、「主体的かつ対話的に学ぶ」姿勢を育成する。全学年で習熟度別授業および少人数授業を実施し、きめ細やかな指導を通して、生徒の基礎基本の定着と論理的表現力等の向上を図る。	B
<div>指標</div> <ul style="list-style-type: none">授業アンケート『授業内容がよくわかる』において、肯定的な回答を 80% 以上を維持する。	

<p>(R5年度、肯定的な回答 1 年 79%、2年 80%、3年 87%)</p> <ul style="list-style-type: none">中学生チャレンジテストにおける英語の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を問う問題の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (R5年度チャレンジテストの「平均点の対府比」、1年 1.03%、2年 1.15%)大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合4技能を 65 %以上を維持する。		
<p>結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none">授業アンケート『授業内容がよくわかる』において、肯定的な回答は 1 年 83%、2年生 90%、3年生 91.7%と、目標を全学年上回った。3年生中学生チャレンジテストにおける英語の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を問う問題の平均点の対府比を、2年生時と比較した結果、前年度より若干ではあるが下回っていた部分があり、指標の達成には至らなかった。 (3 年生1. 12%、2年生はチャレンジテスト結果待ち)GTEC では、CEFR の A1 レベルの数値が 77.65%と非常に高く、大阪市平均スコアと比較すると、特に「聞くこと」では 15 ポイント、「書くこと」では 23 ポイント上回ったので、指導の一定の成果が見られたと考える。		
<p>今後の改善点</p> <ul style="list-style-type: none">習熟度別授業、少人数授業など苦手な部分を丁寧にフォローできる内容や方法を取り入れて、ボトムアップをしていく。ペアワークやスピーチなど、英語を使う場面を増やし、英語で表現したり伝え合う活動の工夫をしていく。英文の読み取るスピードを上げるため、多くの英文を読ませる活動の精査し、英文での情報処理能力を高める。		
<p>取組内容⑥【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>音楽科</p> <ul style="list-style-type: none">対話的で深い学びを進め、「教え合い」や「思いや意図を生かした授業」を実施する。技能の向上と共に主体的な学びを行い、行事における実技の充実を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">授業アンケート「行事の時にしっかりと歌うことができますか」において、肯定的な回答を 80%以上にする。	B	
<p>結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none">授業アンケート「行事の時にしっかりと歌うことができますか」において、肯定的な回答は 95% になった。体育大会の国歌・市歌・校歌を歌唱するときに昨年度と比べて声を出すことができていた。文化祭の時には2・3年生ともに学年合唱にしっかりと取り組み、体育館を響かせることができていた。		
<p>今後の改善点</p> <ul style="list-style-type: none">体育大会時、音楽科の方で校舎から指揮をしたが、生徒が主体的に歌唱できるような工夫を重ねていく。また、卒業式・入学式時においても同様に歌唱できるようにする。		
<p>取組内容⑦【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>美術科</p> <ul style="list-style-type: none">昨年度の授業を振り返り、指導計画を見直す。その単元で何を学ぶのか、どのようにして学ぶのか、何ができるようになるのか、生徒の実態に見合った目標に精査する。資質・能力を育てる授業を実践する。作品だけでなく言語活動や試験においても最適解を求められる授業にすることで生徒の考えが深まり、広がるようにする。通常学級に在籍している生徒の特性を把握し、整理する。生徒ひとりひとりへの指導の方		

<p>向性を構築し、机間指導に反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> これらをもとに生徒が主体的に考え、表現しあう授業、受け身にならない授業を実践する。 <p>指標</p> <p>1年生：「授業内容がよくわかる」において、肯定的な回答 95%を維持する。 （参考：R 5年度 1年生 98%、R 4年度 1年生 95%、R 3年度 1年生 97%）</p> <p>2年生：「考えが深まる、広がる」において、否定的な回答 10%以下を維持する。 （R 4年度 9%）</p> <p>3年生：「考えが深まる、広がる」において、最も否定的な回答 4%以下を維持する。 （R 5年度 3% R 4年度 5%）</p>	B
<p>結果と分析</p> <p>1年生：「授業内容がよくわかる」肯定的な回答 95% 2年生：「考えが深まる、広がる」否定的な回答 11% 3年生：「考えが深まる、広がる」もっとも否定的な回答 4%</p> <p>各指標を経年比較して見ると、全学年とも大きな変化は見られない。全学年とも「授業内容がよくわかる」で最も否定的な回答が無かったことから、授業内容は一定の理解がなされていることが伺えた。</p> <p>3年間の経年比較の結果、指標に対して一定の数値を維持しており生徒観によって出た数値の差は僅かである。今後は授業計画や内容を精査していくことで、数値の向上を図ることが望ましいと感じた。</p>	
<p>今後の改善点</p> <p>美術科の特質に応じた見方・考え方のイメージについての理解と実践内容を深める。生徒の驚き、気づき、ひらめきなど「あ！」や「おおっ！」など素直な感情表現を大切にする。美術科は9教科で唯一意味や価値を「つくりだすこと」と記載されている教科である。引き続き、言語活動や試験においても、生徒が自分なりの答えをつくり出せる授業にしていきたい。</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>保健体育科</p> <p>めあて、振り返りを確実にし、その日何を学んだかを明確にし、「生徒に分かりやすい」授業を行う。</p> <p>「生徒に分かりやすい」授業を行うことで、体の使い方や、コツ・ルールを理解し、分かる・できる楽しさや大切さを感じさせる。</p> <p>運動が「できる」、「わかる」ことで興味関心を持ち、主体的に運動に取り組む生徒を増やす。</p> <p>指標</p> <p>授業アンケート『授業内容がよくわかる』において、最も肯定的な回答を 60%以上にする。 （R5年度 もっとも肯定的な回答 56%）</p>	B
<p>結果と分析</p> <p>授業アンケート『授業内容がよくわかる』において、最も肯定的な回答は58%であった。</p> <p>3学年で4人の教員が授業を行う授業展開において、確実なめあての提示や振り返り、ICT 機器を活用した視覚的な授業展開を行うことが出来た結果、授業がわかる生徒が増加した。</p> <p>今後の改善点</p> <p>運動が苦手な生徒がわかりやすいポイントや、視覚的な情報の教材研究を行っていく。</p>	
<p>取組内容⑨【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>技術・家庭科</p> <p>授業に参加できない生徒へ、実習に見合った課題を提示し、評価する。</p> <p>課題解決に向けて、主体的に考え、発表の充実を行う。</p> <p>指標</p> <p>授業アンケートにおいて「主体的に話し合う時間がある」において、肯定的な回答を 70%以上にする。 （R5年度、肯定的回答 技術分野 1年 70%、2年 45%、3年 70% 家庭分野 1年 79%、2年 67%、3年 78%）</p>	B

<p>結果と分析</p> <p>技術:授業アンケートにおいて、1年 56%、2年 63%、3年 77%(平均 61.7%)で指標を下回った。 授業に参加できない生徒にはプリントを配布や Teams での課題提出ができ、評価をすることができた。</p> <p>家庭:授業アンケートにおいて、1年 73%、2年 75%、3年 75%(平均 74.3%)で指標を上回った。 授業に参加できない生徒は、ER にて個別対応したり、夏休みの補習などをしたりして、課題を提出させ評価することができた。</p>	
<p>今後の改善点</p> <p>技術:「主体的に話し合う時間がある」では特に1年生のアンケート結果が低いため話し合う時間を多く取り入れ、課題解決に向けて改善していく必要がある。</p> <p>家庭:作品製作後に、学んだことをふまえて自分の意見を発表することができたことが自信へとつながった。総合的読解力と授業内容を検討していく必要がある。</p>	
<p>取組内容⑩【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 特別の教科道徳(人権・道徳教育委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間、「自分へのふりかえり」を盛り込んだ「道徳の振り返りシート」を作成し、4段階の自己評価をする。学期末に各学年で「学期の道徳の授業まとめ」を実施し、実施結果を「学期評価」に反映させる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「道徳の振り返りシート」を学期ごとにアンケートを実施し、「考えを深めることができた」において肯定的な回答を80%以上にする。(新規) 	B
<p>結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「道徳の振り返りシート」を学期ごとにアンケートを実施し、「考えを深めることができた」において肯定的な回答を 1 学期99%、2学期91%、3学期97%になった。年間を通して道徳を35時間実施することができた。 	
<p>今後の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートを Forms で実施した、スムーズに集計できたので来年度以降もこの形で実施していく。 	
<p>取組内容⑪【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 サポートルーム(インクルーシブ教育推進委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の指導計画を作成し、個の課題に応じた自立支援に努める。 ・ 学級担任、学年、教科担当との連携を密に行い、生徒の状況を確実に把握し、個別に適した支援を展開する。 ・ 生徒、保護者、学校が協働して誰一人取り残さない学力の向上に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サポートルーム保護者アンケート「特別支援学級は、生徒一人ひとりのよさを生かす教育活動に取り組んでいる」において、肯定的な回答 90%以上を維持する。(R5年度 95.8%) 	B
<p>結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期に実施したサポートルーム保護者アンケート「学校は、生徒一人ひとりのよさを生かす教育活動に取り組んでいる」において、肯定的な回答が 91.7%で目標達成した。個別の教育支援計画に基づいて、自立活動や、一人ひとりに適した支援を行うことができた。 	
<p>今後の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登校することが難しい生徒や情緒が不安定な生徒が一定数いるので、特別支援学級が生徒たちの居場所になるように環境整備に努める。また学級担任、学年、教科担当、保護者との連携を一層密に行い、個別の教育支援計画を見直し、生徒の実態に応じた支援をする必要がある。 	
<p>取組内容⑫【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 授業改善(教務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相互授業参観による学びあいを通じて教員の授業力向上を図り、自身の授業において改善点を具体的に反映させる。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ R5年度チャレンジテストの結果を振り返り、R6年度の授業に反映させ授業改善を図る。 ・ 生徒の学力向上について漢字検定、英語検定に向けた取り組みを実施する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒アンケート「先生は、教え方をいろいろ工夫している」において、最も否定的な回答3%未満を維持する。(R5年度 0.7%、R4年度 0.7%) ・ 全学年5教科の領域等別平均点において、大阪府平均を超える項目の割合 80%以上を維持する。(R5年度 36/45 項目→80%、R4年度 38/49 項目→78%) ・ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を(4技能)65%以上を維持する。(R5年度 73%、R4年度 67%) ・ 漢検で生徒各自が目指すライセンス3級までの取得率を 70%以上にする。 (R5年度 69.2%、R4年度 24.0%) 	B
<p>結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒アンケート「先生は、教え方をいろいろ工夫している」において、最も否定的な回答は R6年度 0%だった。 ・ 相互授業参観を行い、参観後の討議を実施した。討議3～4 名で班となり、授業で感じたことなど意見交流の場を設定した。 ・ チャレンジテスト全学年5教科の領域等別平均点において、大阪府平均を超える項目の割合 (R6年度 3年 17/19 項目→89.4% 2年 00/00 項目→00% 1年 00/00 項目→00%) ・ 1,2 年生の割合は結果がわかり次第反映させ、学校協議会に間に合わせる。 ・ 弱みのある項目を授業で補った。課題やテストでチャレンジテストと同じ傾向の問題を出題した。 ・ 大阪市英語力調査結果は R6 年度 77.7%だった。 ・ 授業では 5 分間の英会話を生徒同士で行った。毎時間続けることでスピーキング技能の向上と定着を図った。 ・ 漢字検定結果はR6年度合格率 3級 50%、4級 32%、5級 30%、9級 0%、10 級 0%だった。 ・ 生徒の実力に応じた受験級の設定が肝要となる。今後は受験級設定のための計画及び手立てが必要となる。 ・ 英語検定結果は R6年度合格率2級 0 名、準2級 8名、3級 16 名、4級 24 名、5級 37 名だった。 ・ 10 月の検定までに各学年3回面接対策を行い、面接官に C-NET を活用した。 	
<p>今後の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相互授業参観、討議 授業改善の視点を明確にする。授業者の視点、学習者の視点など。教科外の教員同士の討議を充実させる。 ・ チャレンジテスト 結果を分析し、弱みのある項目を授業で補う。 ・ 大阪市英語力調査 ライティング技能の向上を図り、英作文に注力する。 ・ 漢字検定 漢字習得の意識付けを行う。ただ書くだけでなく、書き順や正しい読み方意味などを覚えることによって得られる有用性を醸成する。 日常生活の中でもその有用性を感じられる機会を設けていく。 ・ 英語検定 引き続き C-NET を活用した面接対策を行う。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 体力・運動能力向上のための取組の推進（保健体育科・再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「めあて」「振り返り」を確実にし、その日何を学んだかをわかりやすく示す。そのことにより「生徒に分かりやすい授業」を行う。 「生徒に分かりやすい授業」を行うなかで、体の使い方や、コツ、ルールを理解し、できる楽しさや大切さを感じさせる。 運動が「できる」、「わかる」ことで運動すること興味関心を持ち、主体的に運動に取り組む生徒を増やす。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト『運動は好きですか』において、もっとも肯定的な回答を 53%以上にする。（R5年度 もっとも肯定的な回答 47.3%） 	B
<p>結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度新体力テスト『運動は好きですか』において、もっとも肯定的な回答が 53%であった。 男子において 69.1%女子においては 36.7%という結果である。男子は体を動かす生徒が多く女子は少ない傾向であった。 新体力テストにおける体力合計点の平均点においても男子は 43.19 点(全国平均値 41.86 点)と大幅に上回っている。女子は 46.87 点(全国平均 47.37 点)と全国平均を下回る結果となった。 運動が好きな生徒が多いと運動する時間や質が増え運動能力も上がる傾向にある。 	
<p>今後の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動が好きな生徒を増やせるように、めあてや振り返り ICT 機器を活用した分かりやすく楽しい、主体的に活動出来る授業を目指す。 	

<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 健康教育・食育の推進（健康教育部、給食委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人一人が健康に気を付けるように取り組んでいく。 学校保健委員会で、課題解決に向けた具体的な活動の推進をするため、発表の充実に取り組む。 食に関する知識を身につけるため、学校給食を生きた教材とし、技術・家庭（食生活と自立など）など関連する教材と連携し、指導を行う。 美化委員会の活動を充実させ、生徒の美化意識向上に取り組む。 健教独自アンケート(生徒)を年に 2 回(1学期末・2学期末)実施し検証と改善に取り組む。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健教独自アンケート(生徒)「自分の健康に気を付けている」において、肯定的な回答を 82%以上を維持する。(令和5年度 87%) 健教独自アンケート(生徒)「朝、すっきりと起きることができる」において、肯定的な回答を 62%以上を維持する。(令和5年度 62%) 健教独自アンケート(生徒)「できるだけ給食を残さずに食べている」において、肯定的な回答を 82%以上を維持する。(令和5年度 88%) ・健教独自アンケート(生徒)「毎日の清掃では、清掃場所をきれいにしようと取り組んでいる」において、肯定的な回答を 90%以上を維持する。(令和5年度 98%) 	B

結果と分析

- ①「自分の健康に気をつけている」に6 おいて、肯定的な回答は 93%であった。
- ②「朝、すっきりと起きることができる」において、肯定的な回答は 55%であった。指標を下回っている。
- ③「できるだけ給食を残さずに食べている」において、肯定的な回答は 92%であり、前年度を上回っている。
- ④「毎日の清掃では、清掃場所をきれいにしようと取り組んでいる」において、肯定的な回答は 96%であった。前年度より、若干下がってはいるが、指標は達成している。

今後の改善点

- ②「朝、すっきりと起きることができる」について指標を下回っており、家庭との連携や生徒への啓発が必要と思われる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 年度末の校内調査(生徒アンケート)で「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」と、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は 27.9%だった。昨年度調査結果の 26.2%を上回るも、目標の 32%以上にするより下回っている。教職員の授業の進め方に変化が表れてきているが、今後も継続して「OYODO STANDARD(授業標準)」を定着させ教職員の授業力の向上に努めていきたい。自分の思いを自信をもって伝え合える子どもを育てる学校となるために、主体的、対話的で深い学びを、さらに推進する必要がある。
- 中学生チャレンジテスト(3年)における国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較した結果、国語 1.08、数学 1.25 だった。目標(+0.03)のクリアはできなかったが、昨年同等の高位で推移した。1・2年生については結果待ちである。
- 習熟度別少人数授業等の充実や指導法の工夫改善を通して生徒の学力の向上に取り組み高水準で学力は維持できている。引き続き学力向上に取り組む。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は 77.7%と目標を大きく上回った。昨年度(73.4%)と比較しても 3.3%上回っている。英語力の向上について、これまでの英検の取り組みや、小学校からの積み上げの成果がここで表れている。
- 年度末の校内調査(生徒アンケート)で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」と、最も肯定的な「好き」と回答した生徒の割合は 52.4%だった。目標値からは 0.6%下回ったが、R5年度の校内調査(47.3%)より 5.1%上回っている。
- わかる授業から出来る。出来ることで楽しい。楽しいから主体的に取り組める授業が保健体育で行えている結果から、向上の要因としてうかがえる。さらに、部活動の充実も要因として考えられ、部活動指導員も今年度9名に拡充し、充実した取り組みができています。

次年度への改善点

- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」とを令和6年度の目標とした。最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は 27.9%だった。大淀中学校教育活動グランドデザインの重点目標「生きる力を育む学校づくり」サブタイトルに「自分の思いを、自信をもって伝える子どもを育てる学校」とある。「主体的・対話的で深い学び」「総合的読解力育成」に向けても、引き続き推進していく。
- 「総合的読解力を高める授業」の施行実施は確実に実施できた。令和7年度は「各教科」「学年の取組」に移行して実施する。それに伴ってリーディングスキルテストは1年次の1学期実施 1回のみに変更する。
- 「OYODOSTANDARD」(授業標準)を確実に実施して学力向上につなげたい。
- 運動能力・運動習慣を高める取り組みを進めるにあたって、スポーツすることが好きな生徒を増やす取り組みを増やしたい。

(様式2)

大阪市立大淀中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ① 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] ② 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。(継続) 教職員の働き方改革に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ③ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。 (修正 R5年度 82%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 ICTを活用した教育の推進(ICT委員会) <ul style="list-style-type: none"> 教育DXの推進に向け、学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。 一人一人に個別最適化されたICT環境を生かし、ERや不登校支援といった個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、リモート授業やnavimaなどを活用し個に最適な学習支援を実施する。 スクールライフノートで、生徒の心の状態や日々の状態を可視化し、いじめや不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 全学年、授業日において学習者用端末を毎日使用する割合を70%以上にする。(新規) 	
結果と分析 <ul style="list-style-type: none"> 指標において全学年、授業日において学習者用端末を毎日使用する割合は71%(令和5年度43%)の活用率になった。心の天気の利用や授業においての学習者用端末を用いた内容の工夫、navimaやTemusの活用があたりまえになってきているため。 	
今後の改善点 <ul style="list-style-type: none"> 更なるDX推進のためデジタル教科書の活用や有効的な授業作りの工夫改善が必要である。 	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革の推進(管理職) <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選、始業式・終業式の弾力的活用、懇談時間等の適正な実施。 部活動指導員活用に伴う長時間勤務の是正。 ゆとりの日の設定 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。 (R5年度 取得率82%、R4年度 取得率84%、R3年度 取得率62.1%) 80時間以上の教職員を減少させる。(R5年度1人) 	

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合は、1 月末現在で 83.3%である。目標を達成する見込みである。 80 時間以上の長時間勤務の教職員は、1 名である。昨年度より減少している。
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇の取得に対して、ゆとりの時間の確保・活用や、学校閉庁日の拡大を来年度は取り組んでいきたい。 あらゆる人材の確保に努め、教職員がゆとりをもって勤務できる環境を整える。
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域と連動・協働した教育の推進】</p> <p>地域の教育資源と協働して、子ども達の成長を支える(主任会、生活指導部、各学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大淀中学校教育活動グランドデザイン」を策定し、大淀中学校学校元気アップ地域本部、区役所、消防署、地域活動協議会、学校医、大阪医専等と協働して多様な経験を通して、心に響く教育を推進する。 <p>例) おおよど学びTAI、地域防災訓練、北区芸術鑑賞会、早朝清掃、地区奉仕活動、北区出前授業、歯と口の健康教室、職業体験等</p>	B
指標	<ul style="list-style-type: none"> 事後アンケートに関して、肯定的な回答を 99%以上を保つ。 (生徒アンケート「防災訓練は役に立ちましたか？」R5年度 99%、R4年度 98%) おおよど学びTAIの活動について、事後の生徒アンケートの肯定的な回答を 80%以上にする。 早朝清掃、地区奉仕活動について、地域の方(学校協議会委員、連合町会長、地域活動協議会会長)から事後アンケートをいただき、肯定的な回答を 80%以上にする。
結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練における、生徒アンケート「防災訓練は役に立ちましたか？」についての肯定的な回答は、98%であった。4月 20 日に行われた防災訓練では、区役所、消防署、地域の皆さんに協力していただき実施することができた。9月2日に行った火災を想定した防災訓練では、事故なく迅速な行動をとることができた。 元気アップによる「おおよど学び TAI」の取り組みは、1 年生は 12 月 11 日実施。2 年生は、2 月 7 日に実施することができた。北区芸術鑑賞は実施済み。早朝清掃は予定通り実施できている。地区奉仕活動は、1 学期の取り組み時期に感染症の拡大影響により実施できていないが、2 学期は予定通り実施することができた。歯と口の健康教室においても、学校医や大阪医専の方の協力で実施できた。2 年生において、1 学期に多くの事業所の協力のもと、職場体験を実施済みである。
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源と協働して、子ども達の成長を支える取り組みを計画的に実施していきたい。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

ICTの活用に関する目標

- ① 「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上に
する。」は 23.7%(12 月末現在)と目標より大幅に下回った。不登校生徒や欠席生徒の実態と数値
計算方式が合致していないことが要因と思われる。
しかし、全校生徒の利用率は71.1%で、昨年度(48.5%)と比較して、飛躍的に学習者用端末を活用
できている。
- ② 学習者用端末を活用した家庭学習は、概ね1週間で一回以上は活用することができている。学習
者用端末を毎日持ち帰ることで、いつでも使えるように整備することができた。今後、予備の学習者
用端末を活用し、授業配信を継続していく。

教職員の働き方改革に関する目標

- ③ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合は 83.3%(1月末現在)と、年度末には目標(85%
以上)をクリアする見通しである。
今年度の、教員の時間外勤務の状況は、累積平均で 35 時間 36 分であった。昨年度は 42 時間 50
分だったので、7時間 14 分減らすことができた。さらに改革を進めていきたい。
年次有給休暇の取得に対して、ゆとりの時間の確保・活用や、学校閉庁日の拡大を来年度は取組
んでいきたい。また、あらゆる人材の確保に努め、教職員がゆとりをもって勤務できる環境を整えて
いきたい。

次年度への改善点

- 本校では、保護者及び生徒アンケートの結果の分析を踏まえ、毎年グランドデザインを策定し教育
活動の向上をめざし取組を進めている。
- Teams の活用によるオンライン学習の実施、授業の配信など生徒の「学びを止めない」取り組みに
努め、生徒の心のケアなどに注力した。設定されている目標値はほぼ達成されているが、「学校
が進める教育活動に期待が持てる」(保護者アンケート)など、どのような要因があるのか、検証し
なければならない。
- 「大淀中学校教育活動グランドデザイン」「ホームページや保護者メール」「ミマモルメ」「学校便り」
「学級通信」「部活動通信」等で、保護者や地域の皆さまに、大淀中学校の教育活動の情報発信を
行ってきた。学校評価アンケート(保護者アンケート)「2、学校は、教育方針をわかりやすく伝えてい
る。」の肯定的な回答は 90.2%(R5 年度.95%、R4 年度.90%)であった。引き続き、開かれた学校づ
くりの観点で充実させたい。
- 国の取組が大きく進展していく中、教職員の働き方改革を引き続き進めるが、大きな動きをしつ
かり捉えて本校の教育活動を充実していく。